

琉球大学学術リポジトリ

稲の生育と温度 ー特に高水温の影響についてー

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮里, 清松, Miyazato, Kiyomatsu メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20355

(6頁からつづく)

ましたが、これは、肌ざわりもよく、アイロンの必要もありませんので、ねまきの生地として好ましいものです。要尺は90センチ幅のもので着丈の二倍 2.5メートルで80仙位で出来上りました。働き着には地味なものをえらぶのがよいのですが、ねまきにはかわいらしい柄か色のもので作った方がよいでしょう。

裁方と縫方

◎ ねまき A

裁方は着丈二倍のものを二つに折り、図(1)のように裁ち、わの方ははさみを入れて四枚にする。裾は図(2)のように裁ちそろえる。

縫方は ①背縫をする。②見返しを身頃にまつりつける。③脇を縫う。④前後の肩を縫い合わせ、後衿の見返しを身頃にまつる。⑤袖口縫代を身頃にまつる。⑥裾を三つ折にしてまつる。⑦打ち合せに紐をつける。

◎ ねまき B

裁方は着丈二倍のものをたて、よこに折り図(1)のように裁つ。脇線の斜めのところで、衿ぐりの始末に用いるバイヤスをとる。(衿ぐりからの裁ち落しでポケットにしてもよい)

縫方は手縫でもミシンを使う時でも袋縫いにするとよい。①衿ぐりをバイヤスで始末し、ゴムテープの通せるようにする。②袖下、脇をつづけて縫う。③袖口を図(2)のようにして縫う。④裾をまつる。⑤ゴムテープを入れる。(ゴムテープは衿ぐり60センチ、袖口35センチの長さのものを二本)。 (外間千代)

「訂正」

先月号の「稲の生育と温度」の記事中「ヒ歩合が高くなる」は「シイナ歩合が高くなる」のあやまりです。8ページの下から三段目にありますから訂正して下さい。 編集係